

平成23年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成23年7月～8月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは播磨灘東部と北西部を除いて平年を下回る。

カタクチイワシ(小羽から大羽)は大阪湾では好漁であった前年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年並み。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年並みか下回る。

大阪湾のシラスは不漁であった前年並みか下回る。カタクチイワシは好漁であった前年を下回る。

播磨灘東部のシラスは不漁であった前年、

平年を上回る。

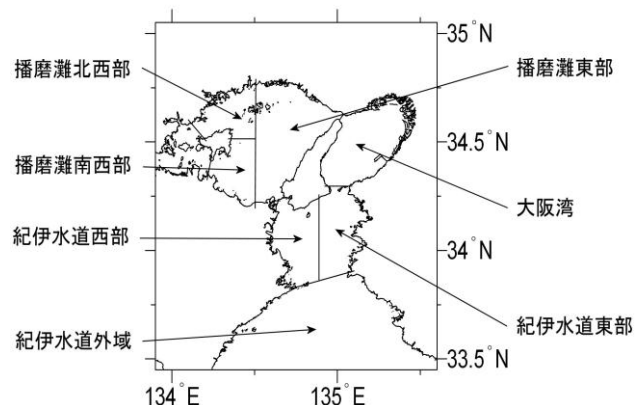
播磨灘南西部のシラスは好漁であった前年、

平年を下回る。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年を

下回るが、平年を上回る。

※平年は1985年～2010年の平均値



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、川村

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

担当：吉田、川崎

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成23年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2011年7～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部では不漁であった2010年並み。

紀伊水道西部では不漁であった2010年並みか下回る。

大阪湾では不漁であった2010年並みか下回る。

播磨灘東部では不漁であった2010年、平年を上回る。

播磨灘南西部では好漁であった2010年、平年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった2010年を下回るが、平年を上回る。

標本漁協、もしくは標本船の漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2010年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった2010年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985～2010年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2011年5月～6月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

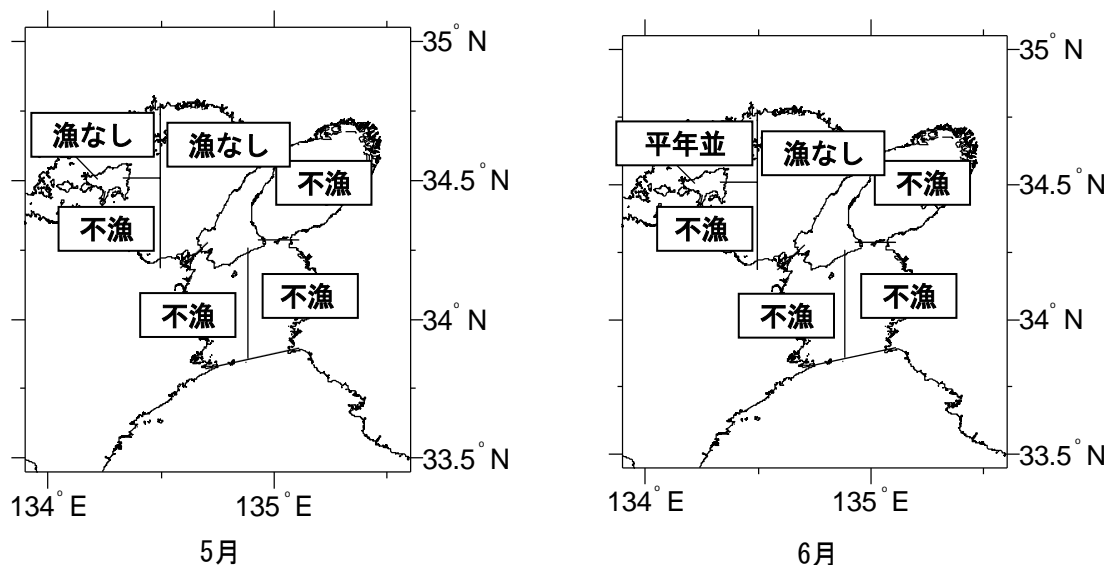
紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の33%、平年の29%であった。6月9日現在も低調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の15%、平年の6%であった。6月も非常に低調である。大阪湾では2011年は5月、6月ともほとんど漁獲がなく、低調な漁模様で推移している。

播磨灘東部（兵庫県側）では2011年の漁は前年より12日遅い6月13日から始まったが、6月24日現在まで漁獲がない状態が続いている。

播磨灘南西部（香川県側）では2011年の漁は前年と同じ5月20日から始まった。5月の漁獲はほとんどなく、低調であった。6月に入って若干増加し始めているが、引き続き低調である。

播磨灘北西部（岡山県側）では2011年の漁は前年と同じ6月8日から始まった。前年を下回るが、平年（2000～2010年の平均値）並みで推移している。



2011年5～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域東部では5月は前年の0.4%、平年（2001～2010年の平均値）の1%であった。紀伊水道東部では5月は前年の16875%、平年の127%であった。

紀伊水道外域西部では5月は前年の11%、平年の16%であった。紀伊水道西部では5月は前年の100%、平年の94%であった。

大阪湾では5月は前年の15%、平年の22%、6月は前年の72%、平年の194%であった。

播磨灘では6月は前年の280%、平年の106%であった（図5）。播磨灘東部では6月は前年の170%、平年の19%、播磨灘南西部では前年の54%、平年の10%、播磨灘北西部では前年の336%、平年の347%であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月16日現在、黒潮は都井岬沖～足摺岬沖でかなり離岸、室戸岬でやや離岸、潮岬沖で接岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と気象庁運用予測モデル（MOVE）の情報を併せて考慮すると、7月は期間を通じて潮岬沖で黒潮流路がやや離岸した傾向を示すが、8月上旬以降は再び接岸して推移すると予測される。

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道東部の5月の産卵量は前年、平年を上回ったものの、紀伊水道外域東部では前年、平年を下回った。現在までの漁況と産卵状況から判断すると不漁であった前年並みであると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘（徳島県海域）の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘（徳島県海域）よりも紀伊水道西部の影響が大きい（図6）。水温は紀伊水道西部で平年並み（平年値±0.5℃以内）であった。一方、播磨灘（徳島県海域）の水温は平年よりやや低め（平年値-1.0℃以上、-0.5℃未満）であった。6月の産卵量は紀伊水道西部では不明であるが、播磨灘（徳島県海域）では前年、平年を下回った。水温と産卵状況から判断すると不漁であった前年並みか下回ると予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。現在、黒潮は接岸傾向で大阪湾への来遊条件はよいが、7月に離岸すると予測されていることから7月以降の外海発生群の漁獲はあまり期待できない。水温の推移や産卵状況から判断すると、2011年の産卵は低水温の影響によって前年や平年と比較してかなり遅れて始まったと推察され、6月中旬現在、内海発生群の加入はほとんどみられていない。以上のことから、不漁であった前年並みか下回ると考えられる。

内海発生群が漁の主体である播磨灘東部では6月の水温が低いほど7～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。また明瞭でないものの、播磨灘全体の6月の産卵量が多いほど7～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。6月の水温はやや低めで、播磨灘全体の産卵量は平年並みであることから（図5）、不漁であった前年、平年を上回ると予測される（図8）。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。漁獲量は6月に入って若干増加し始めているが、依然低調なままであり、6月の卵稚仔密度も平年を下回っていることから、好漁であった前年、平年を下回ると考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。6月の産卵量は前年、平年を上回ったものの、6月の漁は前年を下回り、他海域での漁も極めて低調に推移している。現在までの漁況と産卵状況から判断すると好漁であった前年を下回るが、平年を上回ると考えられる。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では漁期当初に前年発生1歳魚、その後は2011年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚が小・中羽として漁獲される。前年の春シラス漁、秋シラス漁、及び秋季のカタクチイワシ漁（カエリ、小羽）が好漁であ

ったことから、前年の発生量は多かったと考えられる。さらに 2011 年もカタクチイワシ親魚の魚影がみられており、大阪湾に滞留している 1 歳魚は現在も多いと考えられる。しかしながら 2011 年の春シラスの漁況から夏季の小・中羽の漁獲はあまり期待できない。これらのことから判断すると好漁であった前年を下回ると考えられる。

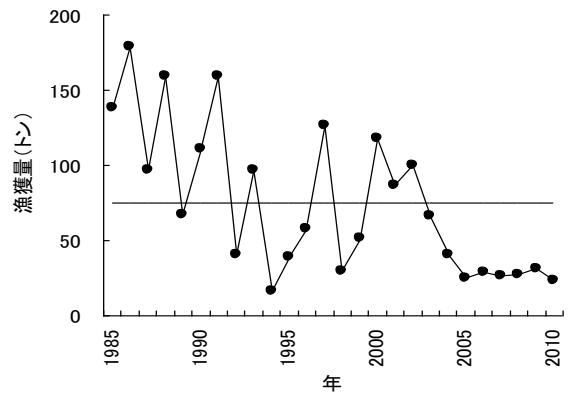
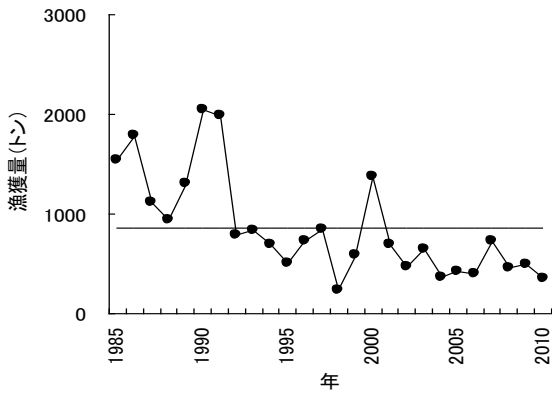


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

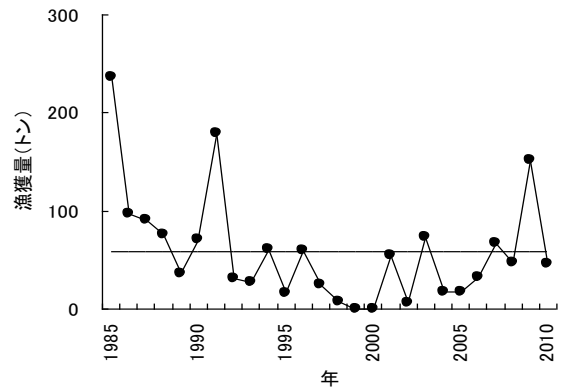
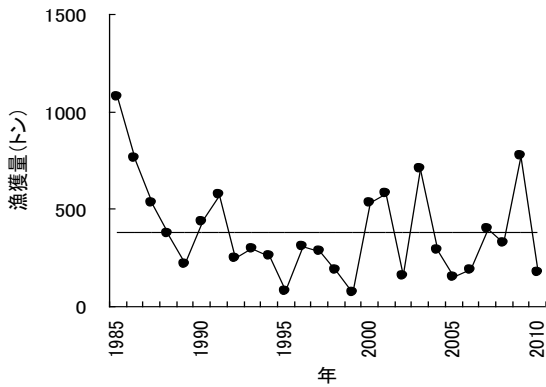


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

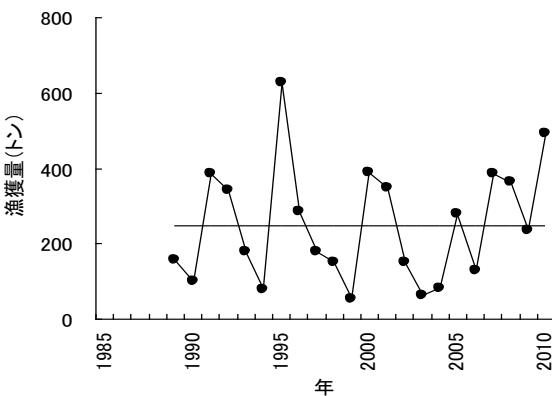
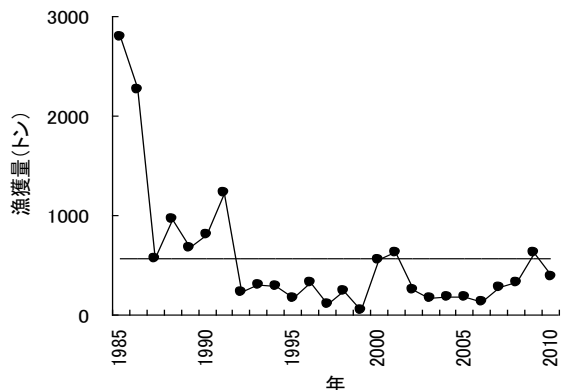
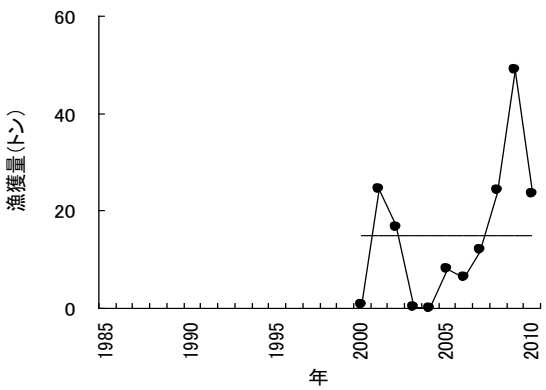


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における7～8月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

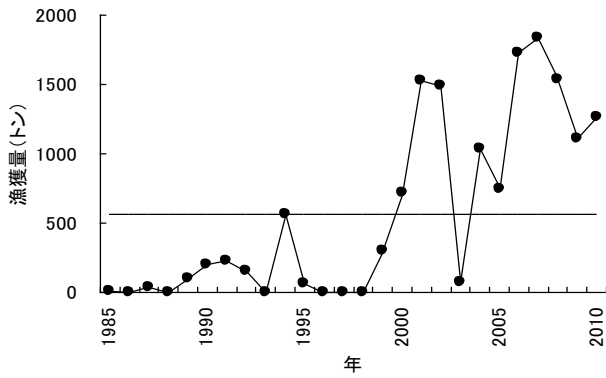


図4 大阪湾の標本船における7~8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値を示す）

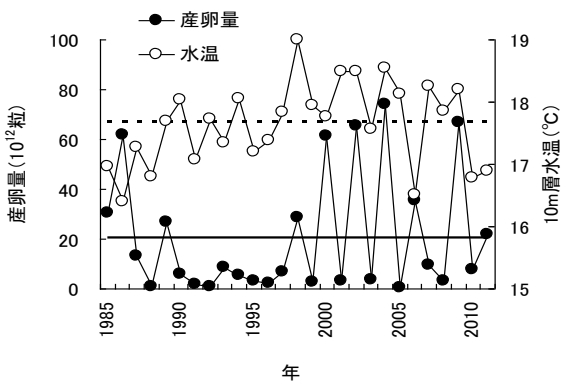


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値を示す）

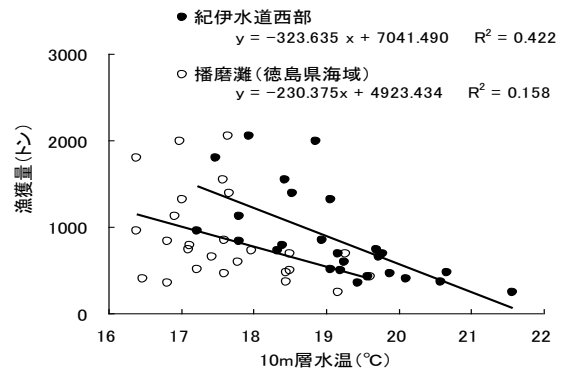


図6 紀伊水道西部・播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

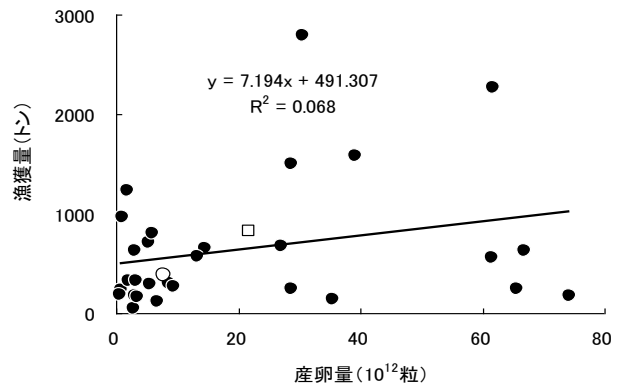
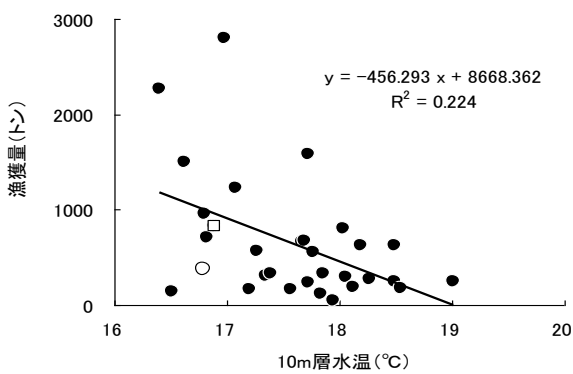


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）及び6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）
 使用したデータは1981~2010年、○は2010年漁獲量、□は2011年予測値（2011年予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、各図の回帰直線上にはない）

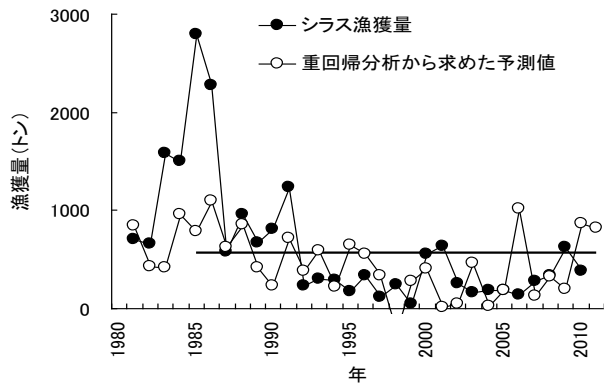


図8 播磨灘東部の標本漁協における7~8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県農林水産総合センター 水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所
	(取りまとめ)
	瀬戸内海区水産研究所